

大学生・専門学校生向けに生活支援プログラムを今年度も充実させます (2020年度の募集は1月上旬に終了いたしました)

プログラムの見直しのため1年間募集を停止しておりましたが、4月から大学生と専門学校生の支援を再開し、坪井一郎・仁子学生支援プログラム(下記)と合計で約35名を支援する予定です。また、支援生の進路選択や就職活動を応援する連続セミナーを実施します。

就学支援に関する相談と応募は、毎年約150件に上っています。日本に定住する外国出身者向けの給付型奨学金は他にほとんどないため、多くの学生は授業とアルバイトで忙しく、就職の準備をする余裕がない状況です。そこで上記のセミナーや面談等を通じて、社会人として必要な知識や思考力などを身につけてもらいたいと考えております。

引き続き、皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。



業界分析、企業の戦略、働き方などについてのセミナーを実施

2020年の目標

2020年、いよいよ学生最後の年になりました。長い人生において、学生時代は決して長いものとは言えません。しかし、人として最も成長できる時期であることを近ごろますます身に染みて実感できるようになりました。残りの学生生活を充実させるために3つの目標があります。

まず1つ目は第一志望の会社の内定をもらうことです。昨年2月に志望業界を決め、6月ごろからインターネットや学校のキャリアセンターを通して企業の情報を集めました。また夏休みを利用して2社の長期インターンシップに参加し、業界に対する知識を深めることができました。将来自分が社会人として働くイメージを持つこともできました。現在は自己分析や業界研究に力を入れ、就職活動を円滑に進められるように準備しています。

2つ目は、宅地建物取引士の資格を取得することです。去年大学の講座に申し込んで勉強を始めました。法律用語や建築関係の知識に今まで触れたことがなかったので、とても苦

モウ シェ 孟 雪 (学習院大学文学部3年)

※就職支援セミナー受講中



戦しました。合格まであと2点足りず、非常に悔しく思いました。もう一度勉強し直し今年こそは合格したいと思います。

3つ目は、アルバイトを頑張り、生まれ育った故郷を訪ねることです。昨年日本国籍を取得しましたが、自分が中国人ではなくなるとは思いません。社会人になると故郷に帰ることが難しくなると思い、夏休みに1週間ほど帰りたいと思います。中国内モンゴル自治区で生まれ、9年間生活していた過去は私にとってかけがえのない宝物です。来日後、自分の背景に対して誇りを持ってない時期もありました。それはまだまだ自分が未熟だったからだと思います。成長するにつれて、多様な文化背景を持つことの大切さに気づきました。学生時代最後の年に故郷に戻り、今一度自分の人生を見直したいと考えています。

2020年度 坪井一郎・仁子学生支援プログラム、PP奨学金 受給者決定

今年も国内各地から応募があり、大学生・大学院生10名の支援が決定しました。今年度は特に、環境問題や防災に関心が高く、ユニークな研究テーマと独自の視点を持った学生が集まっています。11月頃に東京都内で研究報告・交流会を行いますので、ぜひご参加ください。主に日本人対象のPP奨学金受給生も43名が決定しました(3月1日現在)。

AAR Japan [難民を助ける会] × さぼうと21 設立40周年記念の集い

160名以上が集まりました(2019年11月開催)

2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 (第一部)

1979年11月24日の「インドシナ難民を助ける会」発足から40年を迎えた2019年11月17日、日本青年館で「設立40周年記念の集い」を開催しました。

第一部の「座談会」には127人が来場。過去に就学支援や学習支援を受け、社会人として活躍している4人の難民の方々が、日本での進学や現在のお仕事について語りました。日本語の習得、学校での差別、受験などの困難をどのように乗り越えてきたか、これまでの経験をユーモアを交えて話してくださいました。

第二部の「同窓会」には難民の元支援生、AAR Japan とさぼうと21の支援者、ボランティアの方々など163人が集まり、久しぶりの再会や新たな出会いを楽しみました。あちこちで歓声が上がリ、会場は喜びで満ちあふれていました。

第一部 元難民支援生による座談会 「インドシナ難民受け入れから40年 日本で学び、働く私たち」登壇者

レー バン トウさん

(元 難民救援奨学金 支給生)

1989年にベトナムを脱出し、シンガポールの難民キャンプを経て来日。現在はIT関係の会社を経営。AARの太陽塾で学びながら大学受験に挑戦した当時の思い出を熱く語ってくれました。日本の多文化共生を担うお子さんの教育にも力を注いでいます。

グエン タット トルンさん

(元 坪井一郎・仁子学生支援プログラム 支援生)

日本生まれのインドシナ難民三世。サイゴン陥落後、ボートピープルとしてベトナムを脱出されたご家族のこと、小・中学校でのいじめ、目標を見出した高校時代など、宇宙開発の立場から地球の環境保護を目指すという今のお仕事に至るまでの経験をお話しいただきました。

リア チン ラム マンさん

(さぼうと21学習支援室 受講)

ミャンマーの少数民族 チン民族出身。大学在学中に学生運動に参加。来日後、条約難民として認定され、大学に進学。通訳兼相談員として難民の人々を支援している今でも、さぼうと21の学習支援室で、専門用語の習得などに努めています。ラムさんにとって学習支援室は、何でも相談できる実家のような場所なのです。

レー ティ ニャット クイさん

(元 坪井一郎・仁子学生支援プログラム 支援生)

ボートピープルである父親の呼び寄せにより、小学生の時に来日。大学院での研究を生かして食品メーカーに勤めています。世界の食糧供給の安定化を目標にしつつ、将来は祖国ベトナムなどの新興国に日本の技術を伝え、人材の育成に貢献したいとの夢を語ってくれました。



◀ 来日からの30年を振り返ってお話くださったレーバントウさん



目標に向かって、日本社会で活躍中の難民の方々

司会：AAR Japan [難民を助ける会] 長 有紀枝 理事長



163人の笑顔に包まれた同窓会

学習支援室の活動報告

さぼうと21学習支援室 子どもの数が5年間で3倍以上に！

さぼうと21の学習支援室に勉強に来ている子どもたち(小中高生)は、年々数が増えています。2014年に21名だった小中高生の数が、2019年には67名と3倍以上に増えました。とくにここ1、2年、小学生と高校生の数がとても増えています。

そこで、今年度のボランティア勉強会(東京都在住外国人支援事業助成)には、都内の公立小学校の日本語学級主任教諭だった島田裕子先生、中学校の日本語学級担当を経て、現在都立高校のJSL取り出しクラスで教鞭をとる小川郁子先生にいらしていただき、たくさんのごことを教えていただきました。毎週土曜日に、さぼうとに来ている子どもたちが、学校でどんな環境におかれているかを改めて知り、「だから〇〇なんだ」「なるほど、そういうことだったのか」と、やっと「腑に落ちる」ことがたくさんありました。

子どもたちも日々追われるような日々を過ごしています。大変です。でも、今をふんばって乗り越えたその先には、そう悪くない毎日が待っていると願い、伴走を続けたいです。

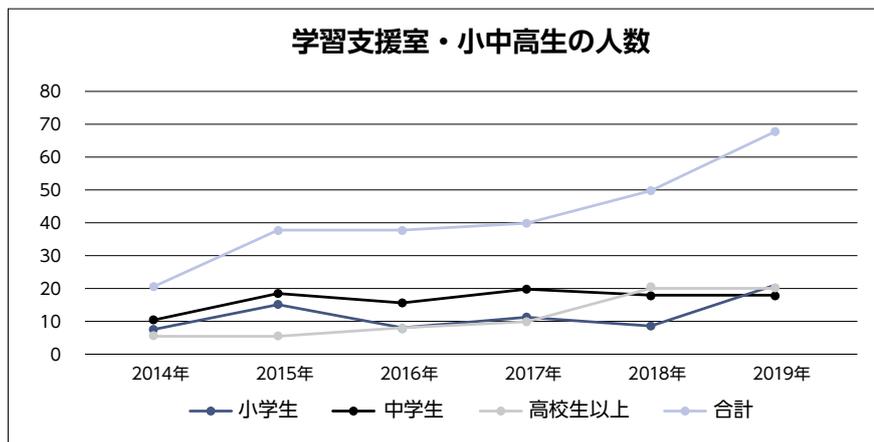
最近、中学時に来日し、以来、専門学校時代まで、毎週さぼうとに勉強に来ていたK君、N君が、ときおりボランティアに来てくれるようになりました。二人とも建築関係の会社に正社員として入り、今や親たちを支える立場になっています。「日本に来て、自分の力で立つことを学んだ」と話す彼らの姿は、実に頼もしいものです。

N君が、高校に入学した頃にしたためたスピーチの最後は、こんなセリフで締めくくられていました。

「日本にはドアがたくさんある。そのドアは全部閉まっている。しかし、鍵がかかっているドアはひとつもない。僕はこの春、高校に入学し、その「夢」というドアに向かう小さな一歩を踏み出しました」

あれから、7年たちました。

学習支援室・小中高生の人数



2019年度も各方面からの助成をいただき、学習支援室の事業の充実がはかられました。感謝申し上げます。

- 東京都住在外国人支援事業：「難民等定住外国人に対する学習支援事業および教育相談対応の充実化事業」
- 文化庁地域日本語教育実践プログラム(B)：「外国人住民と日本人住民が本気で「防災」に取り組むための日本語教育展開事業」
- 文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業：「難民等に対する日本語教育に携わる人材養成のための研修開発事業」
- 一般財団法人ファーストリテイリング財団：「夏休み／春休み 集中学習支援教室」事業



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.69 2020.3

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

日本で安心して、 笑顔で暮らしてもらう日を目指して

難民や外国出身者が、日本での生活で何か困ったことがあった時、まずは気軽に相談できる場所として、相談を受けています。家族や友人を頼り来日した方、頼れる人が誰もいない方など、置かれた状況も様々です。

私たちの困りごと（相談事例）

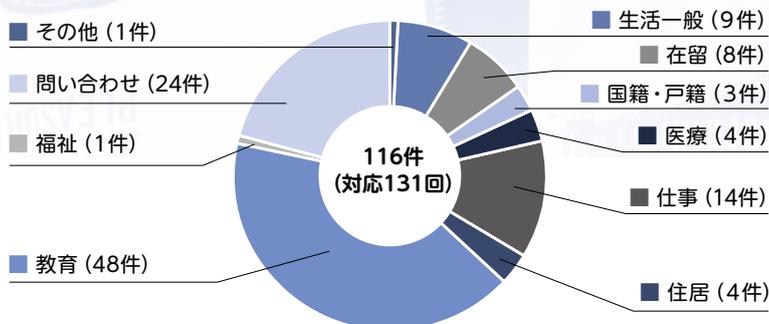
※ プライバシーに配慮し、相談内容は一部変えております。

一緒に病院に来てほしいです

軍事政権下で迫害を受け、日本に難民として受け入れられた A さん。念願叶って母国から呼び寄せた家族と一緒に暮らすため、深夜・早朝のパートを連日こなしていました。ある日、急な腰の激痛に襲われ、立ち上がることも難しくなりました。近くの病院に行ったところ、とても大きな病院に行くように言われました。しかし英語も日本語も母語ではない A さんには、病院の先生が話すことがよく理解できません。診察代も薬代も高く、家計を圧迫しそうで心配・・・

A さんの相談対応は1年に及びました。病院への同行、通訳の手配や、高額療養費制度の申し込みなど、今、不安に思っていることを聞きながら、利用できそうなサービスや機関を探して繋げていきました。手術は無事に成功し、今は無理のない範囲で仕事のシフトを組んでもらっています。縁あって日本で暮らす人たちが、助けが必要な時、問題の解決に向けて一緒に考え、行動する姿勢を大切にしています。

2019年度相談統計（2020年2月現在）



2020年度 年会費のお願い

私たちの活動は、皆さまからの会費とご寄付で運営しております。継続してご支援いただくことで、支援を必要とする難民などの外国出身者に対し、きめ細かいサポート体制を築くことが可能となります。2020年度も、300人を超える難民などの外国出身者と関わることが予想されます。皆さまの温かいお気持ちをお寄せいただけると幸いです。

対象期間：2020年4月～2021年3月

当会への会費・ご寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。

社会福祉法人さぼうと21は・・・

認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan) を母体に、その国内事業を受け継ぎ、社会福祉法人として1992年に設立されました。

日本で生活する難民やその家族、定住外国人などの相談に乗り、学業継続のための就学支援や学習支援など、自立を後押しする活動を行っております。また、日本人の学生には、pp奨学金を2017年度から実施しています。

私たちの活動を応援して下さる方を求めています！

■会 員：法人会費50,000円／個人会費5,000円

■ご寄付：随時受付

■マンスリーサポーター：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
三菱UFJ銀行	目黒駅前支店(普) 1390060 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

社会福祉法人 さぼうと21

住所：

〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階

TEL：

03-5449-1331

FAX：

03-5449-1332

E-mail：

info@support21.or.jp

URL：

http://www.support21.or.jp

